

方 面	方面狙撃競技会	(1面)
1 師 団	ダルマ・ガーディアン24	(2面)
12 旅 団	第59回定期演奏会	(3面)
1 施設団	防災担当者会議	(4面)
関東補処	兵站実動訓練	(4面)
混 成 団	団長着任行事	(5面)



令和7年4月25日 第1083号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住 所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

方面狙撃競技会

2普連本管中が優勝

34普連1中・5中との巴戦制す

方面隊は3月3日・4日の両日、東富士演習場において、狙撃手・組に必要な狙撃練度の維持・向上を図るとともに、狙撃手希望者の拡大に資することを目的として、令和6年度方面狙撃競技会を実施した。関連③面競技会の開始に当たり統裁官(幕僚副長(防衛))

は「首都圏等の防衛、警備を担任する東部方面隊においては、重要防護施設への対処は、重要な戦術行動であり、その中において各狙撃手の果たす役割は非常に大きい」と訓示するとともに「狙撃精進の追求」「部隊代表としての誇りの堅持」「安

全管理の徹底」の3点を本競技会は高度な能力を有する特殊部隊等への



競技会を視察する総監



三脚を使用した精密・識別射撃



遠距離射撃



表彰式

2普連の狙撃能力を示すことができた。今回の結果に満足することなく、常に向上心をもって狙撃能力の向上を目指していく」と競技会後話し、さらなる飛躍を誓っていた。

対処、市街地戦、住民混在下となる首都防衛における特性に鑑み、今回から新たに精密射撃、識別射撃が追加され、1回戦、準決勝、決勝の3個ステージによる勝ち上がり方式で行われた。参加した各組(1師団18個組、12旅団12個組、混成団6個組、計36個組)は射手と観測手が連携して、発見した目標を迅速に評定し、精密な狙撃を追求した。各部隊は狙撃手・組としての誇りと部隊の名譽を賭け、勝利に向けてひたむきに取り組んだ。また競技会の状況を、リアルタイムで各部隊に映像配信することにより、駐屯地等では多くの隊員が応援することができた。競技の結果は第34普連科連隊第1中隊・第5中隊との巴戦を制した、第2普連科連隊本部管理中隊が優勝した。優勝した2普連本管中に、2普連本管中 竹内山田3曹は「一連隊・中隊の支援のおかげで優勝することができた。今回の競技会は、あくまでも通過点として捉え、今後も狙撃能力の練度向上を図り連隊の任務に貢献していきたい」と話すとともに、2普連本管中 竹内2曹は「方面狙撃競技会で優勝することによって、2普連の狙撃能力を示すことができた。今回の結果に満足することなく、常に向上心をもって狙撃能力の向上を目指していく」と競技会後話し、さらなる飛躍を誓っていた。



優秀した2普連本管中
射手 山田3曹 観測手 竹内2曹



着任の挨拶を述べる竹内幕僚副長(防衛)

竹内陸将補 教訓研本教育部長から
方面総監部幕僚副長(防衛)に着任
総監部は3月24日、朝霞駐屯地において、転入者紹介行事を行った。たこのたびの異動で、教育訓練研究本部教育部長から竹内陸将補が幕僚副長(防衛)として着任した。

東部方面総監部幕僚副長(防衛)

陸将補 竹内 哲也

生年月日 昭和46年3月29日
出身地 鹿児島県
学 歴 防衛大学校(第37期)

主要経歴		
平成26年	第8特科連隊長	(北熊本)
同 28年	陸上幕僚監部運用支援・情報部情報課長	(市ヶ谷)
同 29年	陸上幕僚監部指揮通信システム・情報部情報課長	(市ヶ谷)
同 30年	第11旅団副旅団長兼真駒内駐屯地司令	(真駒内)
同 31年	富士学校特科部長	(富士)
	兼諸職種共同センター副センター長	(伊丹)
令和 3年	中部方面総監部幕僚副長	(目黒)
同 4年	教育訓練研究本部教育部長	



総監部隊員に見送られる久保前幕僚副長

久保前幕僚副長は
高射学校長兼下志津駐屯地司令へ
総監部は3月19日、朝霞駐屯地において、見送りの行事を行った。久保前幕僚副長(行政)は総監部隊員より盛大な見送りを受け、総監部を後にし、高射学校長兼下志津駐屯地司令へ栄転した。

第12旅団

来場者の「満足」99%

定期演奏会場で訓練検閲を実施



観客を魅了する第12音楽隊

旅団は3月9日、高崎芸術劇場において、第59回定期演奏会を実施した。また本演奏会の準備段階から本番までの一連の行動を検する第3次旅団訓練検閲を実施した。本訓練検閲は第12音楽隊の練成訓練の成果を評価するとともに、旅団定期演奏会場の活用とその進歩向上を促すこと



司会で大いに盛り上げた矢野3曹

を目的に行われた。訓練検閲を前に旅団長は「指揮の要訣の実践」と「戦闘力の組織化」の2点を要望に掲げ、「音楽隊は平素から隊員の士気の高揚のみならず、各種式典や広報等の場において、直接国民の理解と信頼を深めることが期待されている。音楽隊長の指揮の下、高い演奏技術を持って指揮者の意図を反映・表現するとともに、

各楽器の演奏を組織化したオーケストラとしての統一感の発揚により、観客を魅了せよ」と訓示した。演奏会は2部構成で行われ第1部を昭和から現在までの100年の歩みを表現した「歴史」を思わせる曲、第2部を現在から将来の自衛隊の取り組み「未来」を想像させる曲など12曲を披露した。特に第2部では吹奏

楽の作曲家として活躍する福島弘和氏による委嘱作品D A R U M Aを初演。群馬県をイメージした和太鼓を使用した独特なイメージの吹奏楽曲が披露され、演奏が終わると観客から盛大な拍手が鳴り響いた。約2時間の公演で訪れた1800人の聴衆を魅了する演奏により陸上自衛隊に対する理解と親近感を、より一層醸成することができた。



「時代」を披露した藤嶽3曹



訓練検閲の優秀隊員に輝いた柳田2曹

D MATと連携強化 広域医療搬送実地訓練を支援

旅団は3月1日、相馬原飛行場において、DMAT（災害派遣医療チーム）事務局が主催する広域医療搬送実地訓練を支援し、防災関係機関との連携強化及び災害派遣対応能力の向上を図った。

本支援は同事務局が実施する、災害が生じた場合の関係機関と航空機を使用した医療搬送における訓練で、第12ヘリコプター隊第2飛行隊のC H・47が使用された。当



機内における治療活動



体験談を話す渡辺3曹

初、格納庫内において、ヘリ隊からの安全教育、機内の説明等が実施され、その後、患者及び医療器材の搭載・卸下訓練における整備員等の助言・指導、最後にエプロン上においてC H・47のエンジンを始動した状態の機内で、DMAT隊員の訓練が行われた。

DMAT隊員らは機内のエンジン音が響き渡る環境下で、応急診療など訓練を行い、治療に及ぼす影響等を体感し、さまざまな問題点を確認していた。

訓練の最後に第2飛行隊の機上整備員の渡辺3曹から、東日本震災時にDMAT隊員と共に大量患者搬送を行った際の活動状況など体験談が語られると、参加したDMAT関係者らは真剣な表情で聞き入っていた。

新発田

駐屯地の取組みを確認 小林防衛大臣政務官が視察



小林政務官との記念撮影



白壁兵舎広報史料館見学

新発田駐屯地は3月4日、小林一大防衛大臣政務官視察を受察した。小林政務官は司令による状況報告を受け、駐屯地を視察し、その後、施設の巡視

屯地及び第30普通科連隊の概要について確認した。その後、施設の巡視

旅団は2月28日から3月2日までの間、長野県市武石地区で林野火災が発生した林野火災に係る災害派遣活動を実施した。2月28日長野県上田市に火に至らなかったことから、同日17時、長野県知事から旅団長に対して災害派遣要請があり、同時に受理し

相次ぐ林野火災に対応 長野県上田市に災害派遣



消火活動を実施するCH-47

旅団は速やかに、第13普通科連隊の連絡員を現地対策本部に派遣し、情報収集を行った。翌1日からは東

火に至らなかったことから、同日17時、長野県知事から旅団長に対して災害派遣要請があり、同時に受理し

方面狙撃競技会 優勝 第2普通科連隊 竹内2曹・山田3曹



竹内2曹（写真左）・山田3曹（写真右）が優勝を果たした。

第2普通科連隊は3月3日・4日の両日、東富士演習場において、東部方面隊が実施した令和6年度方面狙撃競技会に参加した。本競技会には狙撃手・組として必要な能力及び狙撃精度を維持・向上することを目的に行われ、36個狙撃組が参加し、1回戦、準決勝、決勝の3個ステージに

よる勝ち上がり方式で実施された。連隊から重迫撃砲中隊を除く各中隊1個組の4個組が参加し、射手と観測者が連携して発見した目標を迅速に標定し、初弾必中の執念をもって精密な狙撃を行った。参加隊員は悪天候の中、連隊・中隊の誇りと名誉を賭け、名スナイパーの称号を目指して競技会に挑み、見事、本部管理中隊の竹内2曹（写真左）・山田3曹（写真右）が優勝を果たした。

第1施設団

各自治体との連携を強化

東日本大震災から14年

施設団は2月13日、古河駐屯地において、令和6年度古河・霞ヶ浦分区分隊担当者会議を実施した。

本会議の目的は自衛隊と各自治体の防災担当者と一緒に会し、自衛隊の災害派遣活動等について

認識を共有するとともに、各自治体との連携強化を図ることであり、古河・霞ヶ浦分区分隊と自治体の各防災担当者、古河・霞ヶ浦分区分隊における災害対処等の認識統一を行うとともに、装備品研修・体験及び図上訓練を実施した。

自衛隊側からの情報提供では、近年起きた災害派遣の活動状況、災害発生から初動対処部隊派遣までの流れ、初動対処部隊の任務等を紹介した。自治体側からの情報提

供では、自治体の防災に係る取り組み等について紹介を受けた。

情報提供の後人命救助システムや野外炊事車等、自衛隊の装備品を展示し、自治体と自衛隊との関係強化・さらなる協同連携の資を得ることができた。



自衛隊からの情報提供



図上訓練



自隊炊事による体験喫食



101施設器材隊による渡河ボートの体験乗船（ろの操作体験）

第1施設団部隊改編 新たな部隊へ編成を完結

施設団は3月24日、隼下部隊各所在駐屯地（座間、高田、松本、宇都宮）において、部隊改編を実施した。

本改編は令和6年度末の機動支援機能の最適化を目的として実施され、改編部隊については、第4施設群390施設中隊および第5施設群393施設中隊が生まれ変わった。



第4施設群390施設中隊（390施設中隊旗返納）

施設団は3月24日、隼下部隊各所在駐屯地（座間、高田、松本、宇都宮）において、部隊改編を実施した。本改編は令和6年度末の機動支援機能の最適化を目的として実施され、改編部隊については、第4施設群390施設中隊および第5施設群393施設中隊が生まれ変わった。

関東補給処

兵站実動訓練

補給任務の完遂に寄与

関東補給処は2月25日から3月1日までの間、霞ヶ浦駐屯地及び駒門駐屯地において、兵站実動訓練を実施した。

本訓練の目的は補給能力の維持・向上であり、大規模震災対処における兵站組織の構成及び業務の運営について演練し、



駒門駐屯地で現地指導する処長



化学部による補給品の積載

陸曹候補生課程履修前教育

同期と共に識能向上を図る



砂盤を使用した戦闘指導

本教育に参加した誘導武器部堀之内士長は「知識や技術を学ぶことができて良かった。これから物心両面の準備をしっかり行い、陸教で頑張りたい」と意気込みを語ってくれた。

関東補給処は3月3日から21日までの間、霞ヶ浦駐屯地、土浦駐屯地及び板妻駐屯地等において、第147期及び第107期陸曹候補生課程履修前教育を実施した。

本教育は入校予定者に対し陸曹候補生としての資質、課程履修に必要な共通の識能及び基礎体力を向上させる。入校準備の万全を期することを目的に分隊教練、戦闘訓練、野外勤務、指導法などを履修させた。

特に今回の教育では、これまでになかった東富士演習場での現地偵察要領や板妻駐屯地での障害走など霞ヶ浦駐屯地ではできない充実した内容となった。

た25日・26日の両日にかけて、処長が駒門駐屯地において現地指導を行い、処の補給支援の実効性を確認した。



化学部

催涙剤の充填行う 処長による現地指導



塞栓の取付けを確認する処長

化学部は3月12日、化学部工場内において、催涙剤充填作業を実施した。同部は陸自の生産計画に基づき、催涙剤を催涙球へ充填する作業を担当している。

送風気密服を装着した隊員は、催涙剤を球体へ充填した後、計量及び塞栓の取り付けという工程の一連の作業を行った。特に計量の作業においては催涙剤と球体を合わせた重量が厳密に定められており隊員は正確な調整を実施した。

当日は処長が現地指導及び隊員激励を実施した。



見送りの万歳を受ける大場将補



名残惜しまれながら見送られる大場将補

第9代東部方面混成団長 大場 勇1等陸佐は3月14日付で早期退職の道を選び、陸将補に特別昇任するとともに団長の職を離任した。

大場将補は平成3年の入隊以降、第10特科連隊に配属後、第4特科連隊長兼久留米駐屯地司令、第10師団司令部幕僚長、東部方面総監部情報部長を歴任し、令和4年8月に東部方面混成団長に就任した。3月14日の大場

将補見送りの行事では武山駐屯地の隊員から惜しまれながらも笑顔と感謝で見送られた。

大場将補は平成25年に創設された国家公務員早期退職募集制度を活用し、1月の定年退職をまたずして新たな人生の道へ進み、退官後も危機管理防災監として国民の負託にこたえる。大場 勇（おおほ いさむ）・山形県出身・第91期幹部候補生（防大35期）

東部方面混成団
公式Xはこちら！
陸上自衛隊【東部方面混成団】公式
@EACB_takeyama
たぐさんのフォロー
お待ちしています！



隷下部隊に着任の挨拶を行う高野新団長

北体育館において、新団長着任式が挙行され、東部方面混成団各部隊の姿を確認した。

高野団長は「新入隊員教育、曹士の基本教育及び即応予備自衛官の教育訓練並びに災害隊区などを担任する東部方面混成団において、災害等の各種事態に即応しつつ、陸上自衛隊の現在と将来を担う隊員の人材育成に携われることは、一陸上自衛官としてこの上ない喜びである一方、その責任の重大さに身の引き締まる思い」と混成団長としての思いを述べた。わが国を取り巻く安全保障環境について複雑で困難であるとの認識を示す一方「防衛力の中核が隊員であることは論を俟たず、

また団長方針として「現在に対応しつつ将来の変化にも備えられるよう、あらゆる知見と能力を結集して更なる「最適」化を図り、（中略）各種事態にも実効的に対応することが必要としたうえで、これらを踏まえ、統率方針として「最適」を掲げ、その具現のため「歴史に学べ」と「想像と創造」の2つを要望事項とした。

東部方面混成団

第10代団長に高野1佐着任

「歴史に学べ」「想像と創造」を要望

第10代東部方面混成団長に3月17日付で九州補給処副処長（目達原）から、高野 康悦（たかの こうえつ）1等陸佐が着任した。同日、武山駐屯地

第10代 東部方面混成団長

1等陸佐 **高野 康悦**

生年月日： 昭和43年12月3日
出身地： 新潟県
職種： 機甲科
期別： 91B

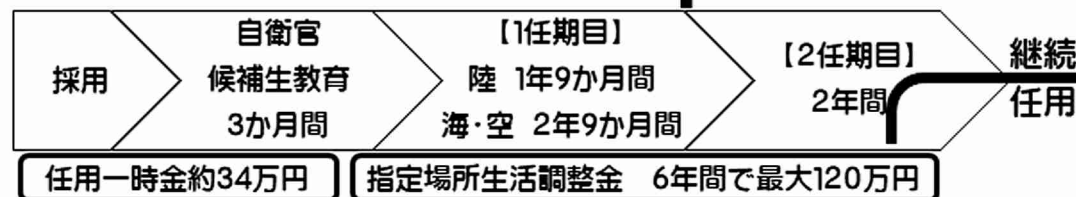
主要経歴
平成23年 8月 中部方面総監部防衛部防衛課長（伊 丹）
平成25年 8月 自衛隊富山地方協力本部長（富 山）
平成27年12月 東北補給処装備計画部長（仙 台）
平成30年12月 北部方面総監部装備部長（札 幌）
令和 2年 8月 開発実験団装備実験隊長（富 士）
令和 4年 8月 九州補給処副処長（目達原）



新卒・既卒・2卒からの 自衛官候補生 (陸・海・空) から実現する夢

18～32歳

1年中スマホで受験可能です。



自衛官として最初の1年間勤務した時の
年収は

約367万円※

※ 高卒任官時初任給 約22.5万円を基準に計算
大卒の場合、任官時初任給 約24.0万円で、年収383万円！

休日：年間約150日

勤務時間：08：15～17：00（基準）

プラス！！

バラエティ豊かなバランスのとれた食事
自衛隊病院等での治療・入院無料

衣・食・住・医療全て提供

（参考）年間の衣食住に係る費用：約111万円
（参考）年間の保険医療に係る費用：約6万円

本紙に記載されている各値については、一部、令和7年度予算案に基づき制作しております。

「テスクワークあり」
「採用時の体力不問」

総監部人事部募集課

希望者の再就職率99%以上
大学進学時年間最大53.6万円支給

生涯収入は
約2.8億円

自衛官を続ける
事もできますよ

これに加え、仕事内容によって色々な手当を支給！

地域手当、特殊作戦隊員手当、
落下傘手当 航空手当、
乗組手当、航海手当 etc

処遇の詳細はコチラにアクセス！

お金を貯めて退職後は
〇〇しよう！

任期満了したら〇〇に
就職したいな！

大学の奨学金を
返済したい！

任期満了したら
進学したい！

※ 金額は四捨五入による。

航空隊 事故の発生を防止 方面航空安全視察を受察

航空隊は3月11日、方面視察官である幕僚副官が主要項目である「指面航空安全視察を受察し」長（防衛）以下、各補助官が主要項目である「指揮・指導態勢」「組織的な



レーダによる管制要領を説明



救難器材等の準備状況を説明

航空安全策」「航空安全に対する取り組み」「航空安全補佐者の活動」について視察を行った。当初、航空隊長が状況報告を行い、隊員個々の特性を踏まえた中長期的な人事管理状況、航空機の飛行計画及び気象に関する情報等の共有状況、航空安全を踏まえた防衛等及び災害派遣計画の整備状況などについて報告した。引き続き、格納庫地区において施設実視が行われ、飛行場施設等の状況に報告した。管制塔では気象情報収集・提供情報及び飛行の統制・調整要領を、GCA局舎（着陸管制誘導所）では、レーダ等を用いた管制要領を説明。その後、駐機場地区において映像伝送機概要などを、C格納庫において救難器材・災害派遣器材等を、E格納庫において国際緊急援助隊器材及び航空野整備隊の業務等を説明した。航空隊は視察官等に各場所での航空安全に関する指導・助言を受け、航空安全確保の重要性を再認識した。今後も隊員の意識を高揚させるとともに、基礎的事項の徹底等を図り、航空事故の発生を防止する。

2高群 中隊等野外行動の訓練検閲 対空掩護任務を完遂

第2高射特科群は2月25日から3月1日までの間、相馬原演習場及び赤城山中継所において、令和6年度第2回中隊等野外行動訓練検閲を実施した。



ドローン対処

本訓練検閲は第334高射中隊、第336高射中隊、第302高射搬送通信中隊、本部管理中隊直轄小隊等及び第301高射運用隊運用班・通信班の練度評価・判定を評価し、その進歩向上を促すことを目的に、各級指揮官の指揮「部隊の基本的行動」隊員の基礎動作」を主要検閲項目として実施した。この際、不審者対応、ドローン対処、時間に余裕のない状態における陣地変換等さまざまな状況に付与し、各中隊等があらゆる事態に柔軟に対応して任務を遂行できる練度にあることを確認した。引き続き、第2高射特科群は本訓練検閲の成果を今後の教育訓練の資とするともに、強靱な東部方面隊の創造に寄与するため、日々の訓練に邁進する所存である。

後支隊 浜松基地にFSA（前方支援地域）を開設 兵站の実効性を向上

後方支援隊は2月25日から3月1日の間、航空自衛隊浜松基地において、隷下6個部隊約68人の隊員をもって浜松FSA（前方支援地域）を開設し、南海トラフ地震対処計画における東部方面兵站組織の開設・運営に係る実動訓練（令和6年度兵站実動訓練）に参加した。



燃料受領



総監に対するFSA地域の説明

集積・保管及び交付について演練し、隊の指揮幕僚活動及びFSA構成部隊の練度を向上させるとともに、兵站の実効性の向上を図った。実動訓練では2月25日午前9時発災以降、迅速に第105全般支援大隊を基幹とした2個偵察班を編成し、主経路及び予備経路の偵察を実施して、先発隊及び主力の前進を容易にさせるとともに、主力到着以降は、拠点駐屯地となる駒門駐屯地等から浜松FSA間において東部方面輸送隊が膨大な補給品を昼夜問わず輸送し、第103補給大隊を基幹部隊とした支援隊が被支援部隊への効率的な交付を踏まえた補給品の集積を実施した。

2月28日以降、第12旅団、第1空挺団への補給品及び燃料の交付を実施して第1線部隊の任務達成に寄与するとともに、効率的な交付要領について確立した。

また総監による訓練視察を受察して、状況報告終了後、FSAの開設状況等を確認してもらうとともに、隊員に対する激励を受けた。

東部方面後方支援隊は、令和6年度兵站実動訓練における教訓事項及び成果等を活用し、いっような事態にも即応できる強靱な部隊を育成するため、教育訓練を実施して、日々任務に邁進していく。

特科連隊 ブラジル大統領来日を 21発の礼砲で迎える

特科連隊は3月24日、東京国際空港において、ブラジル連邦共和国大統領来日に伴い、国賓に対する礼砲を実施した。

礼砲とは105mmの弾砲4門を用い、国賓等来日時において敬意を表すために空包射撃を行う国際儀礼であり、特科連隊は、この国家的任務を陸上自衛隊で唯一担任している。近年では、平成29年、平成30年、令和元年の「即位礼正殿の儀」における国家的行事でも実施している。

今回編成された礼砲隊は、第1大隊第1中隊長を礼砲隊長として、計画的かつ段階的に練成を積み上げ、万全の態勢を整え当日任務に臨んだ。

当日緊張感が漂う中、空港内の礼砲射撃位置に火砲を速やかに展開し、滑走路上を通過する国賓の礼砲任務を完遂した。



航空機を迎える礼砲隊

搭乗航空機に敬礼をした後、ブラジル大統領が昇降機階段に第一歩を踏み出した時に合わせ、各機関の連携により寸分違わず正確なタイミングで初弾を発射して、合計21発の礼砲任務を完遂した。礼砲隊長を務めた第1中隊長の福田一尉は「本礼砲任務を仰せつかった時、

訓練所感

第32普通科連隊
本部管理中隊
2等陸曹 川上晃典



ティを大切にしていることがよく分かりました。挨拶の仕方や敬意の表し方、さらには食文化に至るまで、さまざまな違いが見て取れます。特に印象的だったのは、インド軍のイントネーションの違いです。英語は世界中で話されているが、地域ごとに発音や抑揚が異なります。インド英語は独特のリズムと発音があり、最初は聞き取りに苦労しました。「Yes」の言い方一つをとっても、肯定しているのか、単に話を聞いているだけのかわかりませんでした。通常の任務に加えて通訳という役割を担うことは容易ではありませんでしたが、部隊の理解と協力があつたからこそ、この貴重な経験を積むことができました。今回得た学びを今後の任務に生かしていきます。

私はインド軍との実動訓練に通訳として参加する機会を得ました。この経験を通じて、文化の違いや言語のイントネーションの違いに直面し、その中で多くの学びがありました。私は他国との共同訓練に通訳として参加した経験があつたので、海外の軍隊との交流には文化的な違いがあることを理解しており、かつインド軍との共同訓練は2回目だったので何とかなるだろうと思っていました。想像以上のものでした。インド軍は独自の文化や慣習を持ち、その中で自らのアイデンティティを保持しているのかわかりませんでした。通常の任務に加えて通訳という役割を担うことは容易ではありませんでしたが、部隊の理解と協力があつたからこそ、この貴重な経験を積むことができました。今回得た学びを今後の任務に生かしていきます。

最後に私を通訳として送り出してくれた部隊に、心から感謝したいと思います。通常の任務に加えて通訳という役割を担うことは容易ではありませんでしたが、部隊の理解と協力があつたからこそ、この貴重な経験を積むことができました。今回得た学びを今後の任務に生かしていきます。

一つとなり、それを乗り越えて任務を完遂できた。引き続きあらゆる事態に即応し、任務を完遂できるよう中隊の更なる精進に邁進する」と所感を述べた。

連隊は引き続き、陸上自衛隊唯一の礼砲実施部隊として、誇りをもって各種任務に邁進していく。

群馬地本

防衛大学校入校予定者に フォローイベント

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は3月18日、前橋募集案内所において、防衛大学校入校予定者フォローイベントを開催した。本イベント



靴磨き体験の様子

当日は7人の入校予定者が集まり、懇談、アイロン掛け体験及び靴磨き体験を実施した。アイロン掛け・靴磨きともに初体験で苦戦する人が多い中で、初めてとは思えないほど、綺麗に靴を光らせる人もいた。体験後の会食では、予定時間を大幅に過ぎるほど参加者同士の懇談は賑わい、大変有意義な時間となった。

参加者からは「同期となる仲間達と交流することができ、抱いていた不安感がなくすることができた。また入校前の安心した「入校前にさまざまな意見交換をすることができ、とても良い機会となった」という声が聞かれた。

新潟地本

大型商業施設で自衛隊をPR DeKKY401広報活動

自衛隊新潟地方協力本部は3月1日・2日の両日、DeKKY401(新潟市中央区)で行われた「新潟を守る『自衛隊車両』特別展示」に参加し、店内に広報・募集ブース(車両展示・制服試着・射的・自衛隊制度説明等)を設置して広報活動を行った。



ギリースーツを着用した隊員との記念撮影

休日の大型商業施設ということもあり多くの家族連れが会場を訪れた。広報ブースでは来場者が制服を試着し、展示車両に乗って満面の笑みで写真撮影をしたり、射的コーナーに参加するなど終日大盛況であった。また募集ブースでは自衛隊に興味を持つ募集対象者が、広報官による自衛隊制度説明に熱心に耳を傾け、疑問や不安を解消し、より学び、人として自衛官としての資質を身につけた

「同期を大切にしたい」「同じ道を歩きたい」という声が多く聞かれた。また入校前の不安感がなくすることができた。また入校前の安心した「入校前にさまざまな意見交換をすることができ、とても良い機会となった」という声が聞かれた。

栃木地本

防災意識の高揚 役立つライフハック(生活術)の実演も

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所は3月21日、栃木県立馬頭高等学校において、次年度3年生となる生徒50人を対象に防災意識の高揚を目的とした防災教育の支援を行った。当日は大田原地域事務所長による防災講話のほか、東日本大震災での活動内容や、危険から身を守るためのライフハック(生活術)の実演を行った。当日は中央即応連隊及び特科連隊第2大隊の支援を受け、野外炊具1号、73式大型トラック、



骨折時に役立つライフハックを取得



体験試乗にワクワクする生徒達

水トレーラ、輸送防護車、軽装甲機動車など災害等で活躍する自衛隊車両等の展示が行われ、参加者の関心を集めた。防災教育では生徒達はもちろん、教員も「このライフハックつかえる」と、改めて防災に対する意識が高揚した様子であった。また「自衛官になりたい」と積極的に話しかけてくれる生徒もいて、防災だけでなく、自衛隊の活動のPRの場となった。

神奈川地本

入隊・入校予定者を激励 神奈川自衛隊音楽まつり

自衛隊神奈川地方協力本部は2月11日、横浜武道館アリーナ(横浜市中区)にて開催された第46回神奈川自衛隊音楽まつりを支援した。

主催したのは神奈川地方協力本部支援団体協議会、県防衛協会、県隊友会、県自衛隊家族会、神奈川地本募集相談委員会の4団体で構成されている。

音楽まつりは2部構成で行われ、今春の入隊・入校予定者とその家族のほか、募集対象者や関係者など約1300人が参



横浜湊和太鼓の演奏と格闘演舞

加した。

第1部では国歌斉唱、来賓祝辞の後、入隊・入校予定者が紹介され、一般幹部候補生として入隊する平野裕介さんが代表として謝辞を述べた。平野さんは出身地である石川県に帰省中に能登半島地震に被災したため、予定していた昨年度の入隊を取りやめ、本年度に再度受験してこの日を迎えた。災害の現実に向き合う中で、周りの人々に支えられて生きていることを実感し、自らも「誰かのために何かをしたい」という気持ちが育まれたと語り「人の痛みを知り、国民から信頼され、愛される自衛官になれるよう、日々精進し続けていきたい」と決意を表明した。

第2部は横浜駐屯地太鼓部の勇壮な「横浜湊和太鼓」の演奏と格闘演舞で幕を開けた。続いて東海大学付属相模高等学校中等部吹奏楽部の元気いっぴいの演奏や横浜市消防音楽隊による軽快な演奏と華麗なステージドリル演技が披露され、最後に海上自衛隊横須賀音楽隊が登場した。美しい歌声や「陸・空・海マーチ・メドレー」などの躍動感あふれる演奏で会場は大いに盛り上がり、フィナーレでは出演者全員がステージに上がり観客と一緒に「Believe」を合唱した。音楽まつりは一体感に包まれながら幕を閉じた。

静岡地本

いざという時のために 静岡女子高校で防災教育

自衛隊静岡地方協力本部は3月12日、第34普通科連隊とともに静岡女子高等学校で防災教育を行った。

これは同校商業科の1、2年生合わせて60人を対象に、防災意識を高め、自衛隊の活動について理解を深めてもらうため行ったものである。

まず静岡地本静岡募集案内所の広報官が自衛隊の概要について説明し、その後、同案内所長が動画を交えながら災害の実状や備えることの大切さを語った。

東日本大震災や能登半島地震の動画から伝わる当時の緊張感や被災者の声などに生徒たちは真剣な表情で見入り、学校が所在する静岡市で起こった台風被害など、身近な災害にも関心を寄せていた。

講話後は学年ごとに分かれて陸自車両見学と担架を使った救急法体験を行った。

屋外で行われた車両見学では、生徒たちが興味津々に軽装甲機動車と高機動車を囲み、座席に座ったり「軽装甲機動車の窓はどうして台形なんですか」と隊員に質問を投げかけていく。

ある！ある！自衛隊

byとむ



毛布を使った担架搬送体験

講話後は学年ごとに分かれて陸自車両見学と担架を使った救急法体験を行った。

屋外で行われた車両見学では、生徒たちが興味津々に軽装甲機動車と高機動車を囲み、座席に座ったり「軽装甲機動車の窓はどうして台形なんですか」と隊員に質問を投げかけていく。

最先任 上級曹長

「敬意と信頼」
「自ら燃える」

東部方面会計隊 渡邊 英紀 准陸尉



令和6年8月1日付で第7代東部方面会計隊最
先任上級曹長を拝命しま
した渡邊准尉です。東部
方面会計隊は方面隊内21
個駐屯地に13個会計隊、
3個派遣隊、4個連絡班
をもち、各部隊の作戦目

的達成のため会計支援を
行っています。

この輝かしい歴史と伝
統ある東部方面会計隊の
最先任上級曹長として勤
務することを非常に光栄
に思うとともにその重責
を実感し、身の引き締め

る思いです。最先任上級
曹長の任務はよく言われ
るように「上意下達」「下
意上達」「隊員の育成」で
すが、この3つを達成す
るためには、指揮の要訣
でも最初「指揮下部隊
を確実に掌握し・・・」と

あるとおり「掌握」が重
要だと考えています。言
葉で言うのは実に簡単で
すが、実際は容易でない
ことはみなさんもご存知
だと思えます。掌握する
ためには隊員の状況を知
らなければなりません。

会計隊は各人毎に会計業
務を実施しているため、
仕事の進捗状況や問題が
生起しているかどうかも
分かりにくい環境にあ
り、心理的安全性の構築
や双方向性コミュニケーション
について着意する

高めるために職務に責任
と誇りを持たせるように
着意し、究極には仕事
好きという感情まで昇華
させ、「自ら燃える」自燃
性の人間に育成してい
く必要があると感じてい
ます。

令和7年度は「防衛力
整備計画」の3年目であ
り会計隊の業務量の増加
が懸念されます。

相互に「敬意と信頼」を
燃える」をキーワード
に、より良い未来へとバ
トンをつなげていくのが
私の責務であると認識
し、深い自覚のもと謙虚
に任務を遂行してまい
ります。

必要があり。私が
隊員と直接接する際は
極力「敬意と信頼」を意
識するとともに、安易に
「解を押し付け」な
うにしています。そうす
ることにより心理的安全
性の構築が推し進められ
ると考えるからです。さ
らには、心理的安全性の
構築によりハラスメント
やWLB、WSPなどの
視点にも対応していける
のではと思っています。

また隊長の要望事項で
ある「いきいき溢れ」を
具現化するために故稲盛
和夫氏の著書である「生
き方」を参考とし、無形
戦闘力である「士気」を
高めます。



「同じ道を共に進む」

第1普通科連隊 第3中隊 中原 瑠美 陸士長



私は幼い頃から、父
の背中を見て育ってきま

した。父は自衛官として
勤務しながら剣道に打ち

込み、八段を取得しまし
た。その姿は私にとって
まさに理想の武人です。
険しい道を乗り越えた父
の努力と精神力を、私は
心から尊敬しています。

私はそんな父の影響を
受けて、自衛官の道を選
びました。そして剣道も
続けており、自衛官とし
て勤務しながら、稽古の
時間を確保するのは簡単
ではありません。訓練で
疲れ果てた日もありまし
た。それでも面をつけ、
竹刀を握り、道場に立つ
と、不思議と気が湧い
てきます。それは幼いこ
ろから父に教えられた
「剣道は心を鍛えるもの
だ」という言葉を思い出
すからです。

剣道でも、自衛官とし
ても、大切なのは強さだ
けではありません。礼節
が続きます。

を重んじ、仲間を思いや
り、常に己を磨き続ける
ことが求められます。剣
道の稽古を通じて養われ
る精神力や忍耐力は、そ
のまま自衛官としての職
務にも生かされます。

今はまだ父の背中が遠
いですが、しかし一歩ずつ
近づいていくことが私の
目標です。まずは四段を
取得し、さらにその先へ
と進んでいきたいと思
います。そしていつの日
か、父と同じように剣道
と自衛官の両方で後輩の
手本となるような存在
になりたいです。



「60と翔ける大空」 第12ヘリコプター隊 吉浦 柚希 陸士長



今月のフェアレディー
は北宇都宮駐屯地に所在
する第12ヘリコプター隊

第1飛行隊整備班航空機
整備手の吉浦士長です。

吉浦士長は令和4年に入
隊、食べ歩きの大好きな
神奈川県出身の21歳で
す。

入隊のきっかけは？
自衛隊案内ポスターが
目に留まり、いろんな人
が違う仕事に就くことが
できることに興味を持ち
ました。被災地に真っ先
に向かい、懸命に救助活

動を行う自衛官の姿に心
を打たれたからです。

現在の職種とその職
種を希望した理由は？
職種は航空科です。前
期教育時からいろいろな
航空機があることを知
り、気になっていたんで
す。仕事で航空機に携わり
たいと思い航空科を希望
しました。

趣味は何ですか？
手芸のダイヤモンドア
ー

趣味は何か？
食へ歩きです！私自身
がフットワークが軽いの
で、いろいろな場所にス
イーツや当地グルメな
どを食へに足を運んだり
します。

今後の目標は？
陸曹候補生の試験に受
かり、共通特技を取得し
たいです。今後は人事陸
曹をやってみたくと思っ
ています。

東方男児

「不撓不屈」 第101施設器材隊 有賀 将志 3等陸曹



今月の東方男児は第1
01施設器材隊特殊器材
中隊に所属する有賀3曹

です。有賀3曹は平成25
年に入隊、中学時代は柔
道部に所属、高校時代は
中距離選手として陸上部
で汗を流していた長野県
出身の30歳です。

入隊のきっかけは？
高校2年生の時に東日
本大震災があり、そこで
被害に遭われている方々
を救助する姿を見て、私
も困っている人を助けた
いと思い入隊を決まし
た。

施設科です。希望理由
は漠然としていました
が、施設機械を乗りこな
し、道路や建物を作りた
いと思い希望しました。

業務の魅力は？
憧れだった大型特殊車
両や特殊な器材を使用
し、何もない場所に道路

を作った車を走らせる
ことができること、業務
が形に残ることがやりが
いであり魅力です。

最も思い出深い訓
練・事業等は？
2021年の東京オリ
ンピック支援です。

海外の方々と英語で
コミュニケーションとる
ことが大変ではありまし
たが、ボディランゲー
ジを交え、上手く意思の
疎通を図ることができま
した。また、荷物検査や
車両検査を学び、その後
の警備訓練等に生かすこ
とができました。

趣味は何ですか？
登山とキャンプです。

登山は小学生の授業をき
き

つかけに、山頂に辿り着
いたときの達成感が病み
つきになり、年に3、4
回は登山しています。キ
ャンプについては、初め
て経験したとき、草木の
揺れる音や虫の鳴き声等
の自然の音、焚き火のパ
チパチと燃える空間に心
地よさを感じ、趣味にな
りました。

最後に一言
私は部隊格闘指導官に
なるまでに6年もの歳月
をかけたことが、諦めず
挑戦し続けたことで格闘
技を身につけることがで
きました。なにかにチャレ
ンジしたいことがある人
は挑戦し続ける不撓不屈
の精神が大切だと思います。

編集後記

最近、あることがきっかけで、帰属意識と誇り
について考える機会を得ました。
A1によると、「帰属意識」とは「組織や集団
の一員であることを自覚し、その組織に対して愛
着や誇りを感じる」と、そして「誇り」とは「一
名譽に感じる」と、またその心「だ」という
自衛官になって間もないころは、「部隊に対する帰属
意識」とか「任務に対する誇り」は、どうやって持つん
だろうと思っていました。それから10年ほど経ち、そう
いうことをあまり考えなくなったころ、当時の上司の言
葉にはっとしたことを今でも鮮明に覚えています。

『隷下部隊のことを末端と言ふ！末端ではなく、第
一線部隊だ！』
もし自分が所属している部隊のことを上級部隊から
「末端」と言われたら、自分たちで自分たちの部隊を末
端部隊と言いはじめたら、そこに帰属意識や誇りは感
じられるでしょうか。

私は、最近、もしかしたら迷彩服に日の丸をつけて任
務にあたってもいいという状況に接し、あらためて
自分が自衛官であるということを強く実感しました。
自衛官として、どんな時に・どんなことに、帰属意識
や誇りを感じるかは、きっと同じところも違うところも
あると思いますが、それを強く感じることができるとも
また、自衛官だからこそかと思えます。
今回の経験を大切に、また新しい経験を積み重ねて
いければと思います。